



20年来グローバル コミュニケーションズ エキスパート。元JAXAエグゼクティブ アドバイザー(広報・国際担当)、国立大学法人山口大学客員教授(国際関係+コミュニケーション論)、評論家・オピニオンリーダー。東京生まれ、英国育ち。講演、テレビ、執筆、政府委員など、マルチに活躍する中で、IRと都市開発のコンサル会社代表も務める。  
<http://www.nishiuramidori.com>

## 連載 第7回

### “国際派大和撫子”が伝える宇宙の開発現場

にうらみどりの

# 「宇宙の窓から」



若田光一さん(右)と筆者

## 若田光一宇宙飛行士 日本人初のISSコマンダー

**地** 球温暖化で熱帯気温に閉口する日々ですが、筆者同様、日本の四季を懐かしむ読者の方々も多いのでは？

日本らしさ、日本の誇りは、宇宙界にも多々ありますが、中でも11月の出発に向けて準備中の宇宙飛行士・若田光一さんがISS(国際宇宙ステーション)第39次長期滞在(半年も!)で日本人初のコマンダーに選ばれたということも大きな誇りです。

一口にコマンダーと言っても大変な重責なので、任務の重大さに身の引き締まる思いだと、過日、一時帰国中のご本人から聞く機会に恵まれました。

例えば、火事のような非常時には瞬時の決断、行動、指示いかんがクルーの明暗を分けますし、出発前の長期に亘るあらゆる訓練

は、筑波、ヒューストン、ロシア・星の街、そしてドイツ航空宇宙センター本部や欧州宇宙飛行士センターがあるケルンなどで数週間ずつ、つとめるのだそうです。

毎飛行、新たに合格しなければならぬ筆記テスト、それらだけでも並大抵ではないですが、英語、ロシア語も流暢に操ります。ISS滞在中は、安全確保のため8時間半の睡眠時間が割り当てられているものの、実際はやるが多くて、6時間程の睡眠になることがほとんどだったとのこと。

若田さんは、すでに特筆すべき実績が山ほどありながら、とても謙虚な人なので筆者が付け加えますと、既に4年前、ISSに、こられた日本人初の長期滞在を果たし、日本実験棟「きぼう」の完成にも貢献しているのです。その時、20週間におよぶ有人宇宙活動は国際的にも絶賛されました。

その上、決して楽ではないISS空間の中で多国文化背景のクルー達からも支持され、素晴らしいリーダーシップも発揮したので、すから、その後、NASA宇宙飛行士室からISS運用プランチーフを任されたのも納得です。

今回のコマンダー選出も、選ばれるべくしてのことと思っております。ご本人は、たまたま、タイミングが良くラッキーだったと謙遜しますが、筆者の見解に賛同する人は多いのが事実です。

重要な活動のひとつ、宇宙環境を利用した様々な科学実験を、日本や国際パートナーのためにも行うとのこと。これらは、今までもすでに複数の成果を生んでいますが、益々貢献度が上がることでしょう。

他にも施設のシステム運用、リペア必至な故障があれば船外活動もするとのこと。まだまだ書ききれないくらい、いろいろ教えて頂きました。ブログ更新は、私用時間の中でやらなければならぬので、案外、あつという間の6カ月なのでしよう。安全帰還をお祈りしています！